

連携先世界遺産： 賀茂別雷神社（上賀茂神社）

【上賀茂神社の魅力を学生の視点で発信する】 「水」をキーワードに7月25日(日)「賀茂の水まつり」の活性化

■受講生

榎浦 大河（龍谷大学・経済学部・4年生）、大川 稜太（京都産業大学・経済学部・4年生）
小林 優雅（京都産業大学・文化学部・3年生）、藁谷 菜未（京都産業大学・文化学部・3年生）
川口 太郎（京都産業大学・現代社会学部・3年生）、土橋 侑里子（京都女子大学・現代社会学部・3年生）
照山 春花（京都女子大学・現代社会学部・3年生）、松下 幸弘（同志社大学・経済学部・3年生）
野村 涼子（京都産業大学・外国語学部・2年生）、井上 菜里子（京都産業大学・文化学部・2年生）
崎尾 悠生（京都産業大学・文化学部・2年生）、秋田 千尋（花園大学・文化学部・2年生）
石川 裕太（立命館大学・経営学部・2年生）、勝尾 祥吾（京都府立大学・公共政策学部・2年生）
田中 南海（花園大学・文学部・2年生）、矢野 遙香（京都産業大学・文化学部・1年生）
坂井 俊介（京都産業大学・外国語学部・1年生）、江口 遥（京都産業大学・文化学部・1年生）
春日 琴（京都産業大学・文化学部・1年生）、加藤 友子（京都産業大学・文化学部・1年生）
久米 悠人（京都産業大学・文化学部・1年生）、酒井 詩未（京都産業大学・文化学部・1年生）
党 奕旭（京都産業大学・文化学部・1年生）、木村 大輝（大谷大学・社会学部・1年生）

■担当教員

吉野 秋二（京都産業大学・文化学部・教授）

活動目的・概要

本授業にて、賀茂別雷神社（上賀茂神社）から私たちに提示された課題は「上賀茂神社の魅力を学生の視点で発信する」でした。また、そのために令和3年7月25日に開催される「賀茂の水まつり」を活性化させることも授業内にて明示されました。

受講生として大学、学部、年齢さらには国籍の異なる24名が集まり、水まつりを盛り上げるために様々なアイデアを出しました。以前から続けてきたお茶席のほか、新しく野菜スタンプアート体験、手作り散策マップ＜ダーツの旅＞、子ども縁日、学生ツーリスト企画を行いました。また、外部団体の方々を招いてのパフォーマンスの段取りや、これら企画の広報活動も行いました。

すべての企画は「上賀茂神社×地域」という観点に着目して考案したものです。私たちは、上賀茂神社が地域の中でどういう役割を果たしていたのかを取材し、その在り方について学びました。そして上賀茂神社が地域の人々の交流の場、憩いの場として成り立っていることを知った私たちは、水まつりのゴールを地域の人々に楽しんでもらうことに設定しました。これにより上賀茂神社の魅力をより強めると共に、上賀茂地域の活性化及び上賀茂神社の魅力発信に繋がると考えました。



◆主な活動

令和3年

4/25 顔合わせ、受講者全員で上賀茂神社参拝
5/23 インタビュートレーニング
5/29 企画アイデアの共有、チーム分け
5/30 散策マップチーム最初の散策・調査
6/2 1週間かけて交流会&案出し
6/12 全体ミーティング、野菜スタンプの試作
6/17 JA上賀茂への取材
6/20 散策マップの試作を作成

6/26 全体ミーティング ＜進捗報告＞
6/27 広報用ポスターのデザイン試作
7/8,11 浴衣の着付けの指導
7/10 全体ミーティング ＜当日に向けての準備開始＞
～ 各チーム買い出し
7/18 京都市広報版にポスター掲示
KYODENTにてニュース記事配信開始
7/24 前日準備、備品の作成
7/25 水まつり当日

活動の成果

野菜スタンプアート体験



廃棄・傷もの野菜を活用し、こどもたちが楽しめる野菜スタンプを作成しました。このスタンプをはがきや手作りうちわに絵の具で押すことで自分だけのオリジナルを作ることができます。当日は用意していたうちわ50枚が全てなくなるほどの大盛況でした。

この企画を通してこどもたちに上賀茂地域の野菜について親しみを持ってほしいと考え、野菜を紹介するパネルを作成しました。実際には通りかかった大人を中心に見て頂くことができました。

野菜はいくつかのスーパーと農業協同組合からご協力、寄付をいただきました。その量は段ボール箱5箱を超えるほどでした。寄付していただいた方々からは「上賀茂神社で使うなら」と快く受け入れてくださいました。

SDGs 12-3には、食品ロス削減の項目があります。その点にも着目し、楽しんでもらう事と、社会問題の解決という2つの観点から企画しました。これらは産経新聞でも取り上げて頂きました。

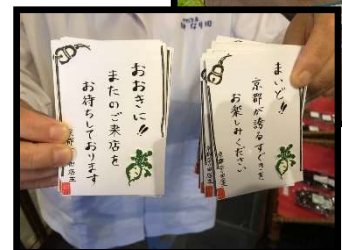
散策マップ・ダーツの旅

学生視点で良いと感じたお店14店舗を掲載した散策マップを作成しました。選定や掲載許可、取材のため各店舗3～5回訪問し交流しました。

また祭り当日には「ダーツの旅」という企画を実施しました。参加者は、散策マップにダーツを投げ、当たったお店の方のメッセージが入った「おもてなしカード」を受け取ります。カードは対になっており、お店に行くともう一方を受け取ることができ、組み合わせることで表の絵柄やお店の方のメッセージが完成します。散策マップを作っても実際に来てもらえないのではないか？という疑問からこの企画を考案しました。この意図を汲んでかカードに割引券などのサービスをして頂いたお店もあり、実際に参拝者には足を運んでいただくことができました。

活動に共感していただいた京雷堂より応援として、煎餅300枚をいただきました。これらは「ダーツの旅」の参加賞として配布しました。

結果として、用意していた300枚全ての散策マップと90枚のおもてなしカードを配布することができました。



こども縁日



私たちは、水まつりに因み「水」を使った遊びで、地域の親子連れのこどもたちに楽しんでもらいたいと考えました。グループでミーティングを重ねた結果、水鉄砲射的、ぷよぷよボール&人形すくいを行う事にしました。

私たちの想定では50人ほどの子供たちが遊びに来てくれると考えていましたが、実際には200人以上の人が来て楽しんでくれました。しかし、想定を大幅に上回ったため、備品や人手の不足という問題が生じることがありました。それでも私たちは他の班の協力を得て、足りない備品を追加購入たり、受講生が水鉄砲でこどもたちと遊んだりすることで最後までやり遂げることができました。

その他

お茶席企画では、一期一会の出会いを楽しんでもらう目的のもと、例年通り佐々木宗聖先生・佐々木徳昭さんご夫妻にご指導いただきながら行いました。計54人もの方々に来ていただきました。ツーリスト企画では、水まつりや上賀茂神社の魅力を伝えるツアーを、8組の学生に行いました。広報班では、自作でポスターを配布し、京都府北区を中心に掲示しました。また、マスメディアに情報を送り、取材と記事作成をしていただきました。招聘班は10を超える部活・サークルに声をかけ最終的に、3つの団体に演目を披露していただきました。



活動を振り返って

本年度は、例年と比較していくつかの異なる点がありました。まず特徴的だったことは受講生の人数です。昨年度以前を大きく上回る24人という大人数でした。この大人数をどうまとめるかという課題に対し、最初の段階からチームに分けて、独立して企画していく方法を取りました。そして各チームが連携していくため、密なコミュニケーションを取る事を大切にしました。その方法が功を奏し、最終的には全体としてまとまれたと考えています。全体で目的が統一できていた為、ほとんどのチームが地域の家族を対象とする企画をしたことが、その例として挙げられます。

もう一点例年と全く異なるのは、新型コロナウイルスの蔓延です。これにより3つの制約がありました。1つ目は実現可能な企画の制限です。特に飲食を伴う企画はハードルが高く断念せざるを得ないケースもありました。2つ目は感染症対策の徹底です。各チームに消毒液を用意し、万全を尽くしました。また、飲食を伴うお茶席では、パーテーションを設置しました。3つ目は、外部団体との協力の制限です。特に招聘チームは、大学サークルのほとんどに断られるなど難しさがありました。また、外部団体にボランティアをお願いすることもできなかったため、当日の人手不足が発生しました。

また、いくつかの反省点があります。まず、準備が直前までかかった点です。散策マップは印刷予定日に掲載情報のミスが発覚し、祭り前日まで印刷が遅れる事になりました。次に、当日の開始時間が遅れた点です。これはテント設営が想定より遅くなった事に起因します。そして、来客数の想定ができなかった点です。前回開催時の情報収集が難しく、感染症の影響で更に予測しづらい要素が重なった事が原因だと考えています。当日は想定外の大人数だったので、どのチームも品切れや人手不足に苦しみました。また熱中症対策も不十分でした。

野菜スタンプ企画では野菜の調達に苦労しました。廃棄される野菜はないかどうか、農家の方に聞いて回ると、「廃棄という言葉聞いて回るもんやない」という指摘や、「規格外野菜だって売り物だ」という事実にあき当たりました。それでも、実際に廃棄が出るスーパーや、JA上賀茂支店の声かけのもと傷物の野菜を集めていただき、実現することができました。当日は思い思いに作るこどもたちの一生懸命さと、完成した後の笑顔がとても印象的でした。

こども縁日ではたくさんの笑顔が見られました。ぷよぷよボールが予想外に好反応で、持ち帰れるということも嬉しがってくれました。兄弟で競ってくれる子どもたちや何回も遊びに来てくれる子どもたちが印象的でした。

散策マップは地域のお店の多大なる協力のもと実現しました。ほとんどのお店で掲載の依頼を快く受け入れて頂いただけでなく、ドリンクなどのサービスと温かいお声も頂きました。おもてなしカードでは、工夫を凝らしたメッセージを用意していただきました。

「上賀茂神社の魅力を学生の視点で発信する」という目標は達成できたと考えています。参加者の楽しいという思い出が、上賀茂神社の魅力が伝わる事に繋がったと期待します。なぜなら上賀茂神社の魅力の一つは地域との結びつきが大変強い事であり、私たちの企画も地域が起点となったものばかりであるためです。上賀茂神社権禰宜の神山様、担当教員の吉野先生をはじめ、このような素晴らしい経験をさせていただいた全ての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

担当教員からのコメント

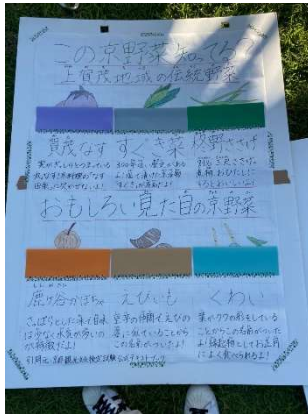
京都産業大学は、京都世界遺産PBLを昨年度休講にさせていただき、今年度復帰することになりました。まずは授業運営にあたり、格別のご配慮を頂戴した賀茂別雷神社(上賀茂神社)様、特にご担当の神山拓也様に心から御礼申し上げます。また、大学コンソーシアム京都にも広報など多方面でご助力いただきました。ありがとうございました。

我々は、世界遺産PBL発足以来、「上賀茂神社の魅力を学生の視点で発信する」というテーマの下、「賀茂の水まつり」の企画・運営という課題に継続して取り組んでいます。本年度は、7月25日、緊急事態宣言の合間を縫うような形ではありましたが、無事挙行することができました。

「水まつり」の運営には、京都産業大学ボランティアサークルNONTs、お茶席担当の佐々木先生、先輩学生などが継続して関わっています。今回は例年通りにできないことが多かったのですが、だからこそ人間関係・信頼関係の大切さ、継続することの難しさと喜びを再認識できたのではないかと思います。受講生の皆さんには、「学生の視点」から、何ができたのか、できなかったのか、しっかりと見直し、今後の人生の糧にして頂ければと希望しています。



活動資料



＜上賀茂野菜紹介パネル＞



＜ポスター＞



＜散策マップ＞

広報



大学プレスセンター
掲載記事



京都市広報版



京都産業大学内 バス停



KYODENT 掲載記事



産経新聞令和3年9月30日付朝刊



京都芸術大学 桃色女剣劇団



お茶席

関わっていただいた方々

- ・上賀茂神社 権禰宜 神山 拓也 様
- ・京都産業大学ボランティアサークル NONTS
- ・お茶席担当 佐々木 宗聖 様
- ・JA 上賀茂支店 支店長 井上 寿 様
- ・JA 上賀茂支店 支店次長 小坂 幸士 様
- ・農業協同組合 上賀茂支部 支部長 藤井 健 様
- ・株式会社アウラサウンドワーク 松原 秀行 様
- ・京都市北区役所 辻井 敦子 様
- ・京都市北区役所 浅井 優祐 様
- ・大学コンソーシアム 池田 明子 様
- ・大学コンソーシアム 吉田 真士 様
- ・京都産業大学 学生部&広報部
- ・南京大学 森 吉弘 様

【招致イベント】

- ・京都産業大学 ギター部
- ・京都産業大学 落語長屋
- ・京都芸術大学 桃色女剣劇団

【ポスター掲載場所】

- ・京都産業大学 バス停
- ・京都産業大学 11号館
- ・京都市広報版 20ヶ所
- ・コープにしがも
- ・なかむら上賀茂店
- ・エムジー上賀茂店
- ・御園橋商店街
- ・キャンパスプラザ京都
- ・上賀茂小学校
- ・京都府北区役所

【散策マップ掲載店】

- ・池西農園
- ・きママなパン屋さん
- ・柊湯
- ・ひめりんご
- ・西村食堂
- ・蔵元 中野商店
- ・天骨庵 慶心
- ・AKカフェ
- ・しんぶ
- ・京雷堂
- ・京都なり田
- ・伊之助
- ・香舗 いせき
- ・いけだフルーツ